

介護老人保健施設

老健ホームいしかわ

きらめき



マリンバ演奏会の様子

認知笑介護念仏

最近老健施設管理医研修会に参加する機会があり、認知症について興味ある取り組みがあったので紹介したい。研修会では認知症介護のいくつかの成功事例が紹介されたが、人の尊厳や生きがいを重視する一般的な介護方法があるようには思えない。なぜなら、それぞれの生い立ちや家族関係、生きがいや趣味、これまでの社会活動は全て違っているからである。認知症介護のポイントや具体的な対処法の本はたくさんあるが、多職種の老健職員がそれぞれ異なる入所者のすべての情報を共有し、それを考慮に入れて認知症の人を介護するのはとても大変な作業に思われる。研修会で提案された興味ある方法は、“あなたが居てくれて嬉しい”と話かければ、認知症の人も老健の職員も笑顔で楽しく過ごせるというものである。動物としての「ヒト」はオギャーと泣いて生まれ、最初の意味ある動作は笑うことであることは良く知られている。ヒトや動物のあかちゃんの笑顔は素晴らしく可愛いことは誰でも実感している。有名な進化論学者の本で「ヒトが最初に笑うのは生後すぐに殺されないためである」と読んだ覚えがあるが、笑うという感情動作は重要な本能であろう。その「ヒト」が最初に笑い、喜怒哀楽を学習して「人」となり、家族をもって社会生活する「人間」になり、運悪ければ認知症になり、やがて老人になって身体精神機能を少しずつ失っても、老後を笑って「ひと」として一生を終えるのは自然の理にかなっている。石川県は室町時代の蓮如や最近でも暁烏敏など浄土真宗には縁が深く、“あなたが居てくれて嬉しいは簡単に覚えることができ、南無認笑護仏と毎日唱えればお互いに笑顔になって救われる”というのは素晴らしいアイデアではないだろうか。

施設長 吉本 谷博

一年の笑顔

in 2018

老健ホームいしかわでは、「ボランティアをお招きする」「入所者が主体となる」「季節感が味わえる」企画で、施設生活を楽しんでいただいています。2019年は、個人個人のご希望に沿った「個別レクリエーション」を充実させていきたいと思っております。

1月 新春紅白歌合戦

「恥ずかしいわ」と言いながらも上手に懐メロを披露しました。



2月 風船バレー大会

日頃のリハビリの成果を発揮。真剣な眼差しで風船を追いかけてました。



3月 すみれ会「歌と踊りとマジックショー」

華麗な手品に「すご〜い」と歓声が上がりました。



4月 お花見

満開の桜を前にうっとり顔がほころびました。



5月 MOA 森本 NW「生け花を楽しむ会」

自ら作製した花器に花を生けました。「いいがなった〜。」



6月 梅の実の収穫

大きく実った梅を手にとりポーズを決めました。「梅ジュース作ってね。」



7月 いきいき美容教室

久しぶりに化粧をしました。「一段ときれいになったね。」



8月 夏祭り「おどりの夕べ」

施設最大のイベントであり笑顔も盛りだくさんでした。



9月 葵流照洲会「踊りの集い」

「立派なもんやなあ。」美しい舞いに目を奪われました。



9月 獅子舞 忠縄町獅子舞保存会

地域の皆様の協力でお祭り気分を堪能しました。



10月 一日喫茶

ご自身でメニューをセレクトしました。「おかわり下さい。」



11月 西条康夫ショー

西条さんの愉快なおしゃべりに会場は笑いに包まれました。



12月 マリンバ演奏会

温かみのある音色に心癒されるひとときとなりました。



地域に頼られる施設であるために

支援相談員 平野 大介

入所相談を担当し、はや6年を経過しようとしております。老健ホームいしかわの入所者様の約半数は森本地区の方々であり、地域の皆様には日頃から大変お世話になっております。

当施設に就職した当初は介護現場で入所者様のお世話をしておりましたが、支援相談員になったことをきっかけに地域の皆様とお話する機会が増え、この地域でのご苦労を耳にすることが多くなりました。大家族が多い地域であり、皆で協力しながら在宅介護を頑張っていること。農家が多く農繁期は十分に介護が追いつかないこと。山間部では、積雪が介護に大きな支障を及ぼしていること……。

一方で、私たちが地域で頼られる施設であるためにはどうあるべきか。在宅介護が行き詰ったときは介護休息のひとつを提供する。仕事が忙しいときはご家族に代わってお世話をする。在宅生活が厳しい夏冬期は過ごしやすい施設で暮らしていただく。大事なものは、そのご家族の事情に合わせ、必要なときに必要なサービスを柔軟に提供できる、施設の姿勢であると思っております。

そのために各職種、ひいては各サービス事業所と連携を図り、地域の皆様が安心して暮らせる地域づくりの一助を果たすべく、日々研鑽していきます。

お困りの際は、老健ホームいしかわにご相談下さい。よろしくお願い致します。

サービス向上委員会の紹介

介護職員・委員長 石名坂 和美

サービス向上委員会は日常生活サービス、主に入浴について、より良いケアを目指していくための計画を作成しております。

入所者様は身体の状態に合わせた浴槽に分かれ、週2回入浴をして頂いております。安心してゆったり入浴して頂くための入浴スケジュールの組み立て、設備品の管理を行っています。

毎年の恒例行事として香り湯を行い、入浴を通して季節感・贅沢感を味わっていただいております。入所者様は菖蒲湯では無病息災を祈願し、柚子湯では柚子を肌に擦り芳香を楽しまれる様子が見られます。血行促進・冷え性緩和など健康維持にも効果があり、「リラックスできる」と好評です。菖蒲や柚子を提供していただける方がいらっしゃいましたらよろしくお願いいたします。気持ち良く入浴していただくために活用させていただきます。

また、「意識しよう！適切なケア 意識しよう！言葉づかい 手を添えて心を添えて」をモットーとした「すてきケア強化月間」活動に取り組んでいます。日々の接遇を振り返ることを目的として、全ての職員を対象にアンケートを実施したり、ポスターを掲示することにより、意識づけの向上に取り組んでいます。本年も入所者様が楽しく生き生きと気持ちよく過ごして頂けるよう、努めて参ります。



柚子湯の様子

おめでとうございます！

今年度100歳を迎えられた入所者様が、金沢市からお祝いを頂きました。末永く元気にお過ごし下さい！



編集後記

今回の「きらめき」はいかがでしたか？

最近聴講した講演会で、共感する出会いがありました。

生物学者である大学教授が“生命を捉えなおす一動的平衡の視点から”というタイトル。もうひとつは住職で“禅における不易と流行”というタイトル。

一見、講師の方々の立場もタイトルも相反するような印象を受けますが、それは先入観だったと……。

世の中のあらゆることは相反することでも“分け隔てがない”という概念にたどりつくような心情に陥りました。

この概念は、入所者様と私たち職員……立場が違うのではなく、グローバル的に表現するなら、“地球上に存在する動植物において、細胞の基本的な組成・形態および機能はみな共通”ということに。

“かわらないためにわかりつづける”

講演会の趣旨はこの言葉に集約されました。

今年5月、新しい元年を迎えますね。節目に相応しい物事の新しい捉え方に出会えたような気がします。直観力を大切に、入所者様及びご家族様と共に良い施設を目指していこうと思います。